

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子どもの保健 ナンバリング：2205	保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：竹内麻貴 担当形態：単独
系列	保育の対象の理解に関する科目		
教科目	子どもの保健		
授業の到達目標及びテーマ 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達および心身の健康状態とその把握方法について理解できる。 3. 子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応について理解できる。			
授業の概要 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学ぶ。子どもの身体的な発育・発達と保健、及び子どもの心身の健康状態とその把握方法について学ぶ。さらに、子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応について学ぶ。			
授業計画 第1回：子どもの心身の健康と保健の意義 第2回：健康の概念と健康の指標 第3回：子どもの健康に関する現状と保健活動および子どもの虐待 第4回：子どもの身体発育と保健 第5回：子どもの運動機能の発達と保健 第6回：生理機能の発達と保健①ホメオスタシス、バイタルサイン 第7回：生理機能の発達と保健②呼吸器系 第8回：生理機能の発達と保健③循環器系 第9回：生理機能の発達と保健④消化器系 第10回：生理機能の発達と保健⑤睡眠とホルモン 第11回：生理機能の発達と保健⑥脳神経と原始反射 第12回：子どもの病気の特徴～総論・心身の不調等の早期発見 第13回：子どもに多い病気 第14回：子どもの感染症と予防接種 第15回：まとめ 定期試験：筆記試験		授業時間外の学習 予習は、あらかじめ教科書を読んでおく。疑問点が出た場合は書き出しておく。復習は、授業ポイントをまとめ、理解できなかった点や疑問に思った点は再学習する。 日ごろから乳幼児に関する保健や病気に関する報道・記事に意識的に目を向けるようにし、把握するよう心掛ける。また、それに対して自分なりに考える習慣を身に付ける。課題は提出期限をまもる。  標準学修時間の目安： 講義内容の予習、復習、宿題を含めて60～120分程度の時間が必要である。	
授業の方法：講義PBL（課題解決型学習）が中心になるが、毎回ディスカッション時間を設定し一緒に考える場面を作ってゆく。グループワーク、発表も行う。リアクションペーパーも活用しフィードバックしてゆく。成績評価に係る重要な提出物は一人一人にコメントを入れ手渡しで返却する。			
テキスト 『子どもの保健と安全』 高内正子編著 教育情報出版			
参考書・参考資料等： 適宜、参考資料を配布、紹介。 「アレルギー対応ガイドライン」「感染症対策ガイドライン」			
学生に対する評価 定期試験の成績（60%）、提出物（課題）（30%）、授業参画度と授業ごとのリフレクションシート（10%）、ルーブリック評価も活用し総合評価する。			
履修上の注意：日ごろから乳幼児に関する報道（特に保健や病気）を意識的に把握するよう心掛け、自分なりに考える習慣を身に付けるとよい。授業中の私語、スマホ操作、写真・動画撮影、通信操作は禁止とする。音楽を聴きながらの受講も禁止とする。			
実務経験の有無	有	実務経験	国立医療センター（産婦人科、外科）、小児科クリニック 教科書執筆 保育園引率看護師、母子支援NPO活動
実務経験を生かした教育内容 看護師、母子支援活動、および自分の育児体験を活かし、現場で活かせる知識を習得できるよう、わかりやすい授業を行う。			